



第6回：中古・中世③ ～詩歌～

漢詩集

懐風藻(奈良時代)



凌雲集・文華秀麗集・経国集

勅撰集

天皇 or 上皇の命で編纂された歌集 ※万葉集はちゃうからね！

★八代集…最初の八つ。順序と撰者を覚える。

①古今和歌集…醍醐天皇の勅命 最初の勅撰集

撰者：紀貫之、紀友則、凡河内躬恒、壬生忠岑

歌人：「六歌仙」僧正遍昭、在原業平、小野小町、文屋康秀、喜撰法師、大伴黒主

仮名序(仮名書きの序文。紀貫之作)と真名序(漢字で書かれた序文)

②後撰和歌集…撰者：「梨壺の五人」清原元輔(清少納言のパパ)ら

③拾遺和歌集

④後拾遺和歌集

⑤金葉和歌集

⑥詞花和歌集

⑦千載和歌集…撰者：藤原俊成(藤原定家のパパ)

歌人：藤原俊成、西行

⑧新古今和歌集…後鳥羽上皇の勅命

撰者：藤原定家、藤原家隆ら

歌人：後鳥羽上皇、藤原定家、藤原俊成、西行、寂連、慈円、式子内親王

ちなみに…

三代集＝古今集、後撰集、拾遺集

三大集＝万葉集、古今集、新古今集

私家集

個人の歌を集めた歌集

山家集…西行

金槐和歌集…源実朝(三代将軍)

建礼門院右京大夫集…平資盛との恋愛 日記にも分類可

歌論

歌経標識(奈良時代)



古来風体抄…藤原俊成(“幽玄”理念の確立)

無名抄…鴨長明

近代秀歌&毎月抄…藤原定家(“有心”理念の確立)

連歌

菟玖波集…二条良基 撰

連歌を確立

ささめごと…(連歌論) 心敬

新撰菟玖波集…宗祇

犬菟玖波集…山崎宗鑑

俳諧連歌→近世の俳諧へ

歌謡

和漢朗詠集…藤原公任 撰

梁塵秘抄…後白河法皇 撰

今様(当時流行っていた歌謡)を集めたもの

閑吟集…小歌(七五調だけど形式は自由な歌)を集めたもの

その他

風姿花伝(花伝書)…能楽書 世阿弥(観阿弥の子)

☆平安～江戸までの詩歌の流れ☆

漢詩の流行



遣唐使廃止・かな文字誕生



和歌全盛



鎌倉幕府成立・貴族弱体化



歌論をつくって

和歌の何たるかを残そうとする



連歌の台頭 和歌に並ぶ文芸に



俳諧連歌へと進化



近世俳諧へ